

平成23年度 第4回CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時 :平成24年1月17日(火) 19:00～21:00

II. 場所 :私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者 :阿部委員 北根委員

(事務局)井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

(1) 学士力実現に求められる教育改善モデルについて

1. 前回に引き続き、中間まとめに対するサイバーFD研究委員からの意見を検討し、反映、改定を行った。

コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル（中間まとめ案1）

- ① 「『体験の中からコミュニケーションに関連する課題の設定を行わせ、解決に必要な知識を自ら獲得させることで知識の活用力の習得を目指す』の授業のねらいと授業のシナリオの区別がしにくいのではないのでしょうか。また学習内容・方法には、もう少し5年先の具体的な授業展開の内容が書いてあると良いと思います。」については、授業のねらいと授業のシナリオが重複しないよう、下記のとおり修正した。
 - ・2.3 ICTを用いた授業シナリオの③については、②の教え合い、学び合いながら、知識を習得できるので、1つにまとめた。
 - ・5年先にはインターネットやインターンシップなどは古いのかもしれない。未来志向で描くのもよいが、ツールがあって当たり前の時代だからこそ基本のコミュニケーションとは何か、考えさせることが重要。
 - ・対人関係、集団組織、社会・文化の文脈に応じたコミュニケーションがどのように変わるかを考えさせることを入れる。
 - ・2.4 ICTを用いた学習内容・方法の②については、理想的なコミュニケーションをするためにはどのように身に付けるべきか、要素を理解させる。5年先には教員に教えられるだけでなく、自分たちで考え、作り出せるのではないか。学生に視点をおき、新しいコミュニケーションに必要な知識、技能、態度を学生たちに提示させ、考えさせ、発表させることを目指す。
 - ・2.4 ICTを用いた学習内容・方法の④については、教育的な視点で社会にインターンシップをお願いするので、どのような視点で社会体験をさせるか、教育として何を期待するかを明確にすることが必要。

などの意見が出され、「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」の最終的にまとめた案は下記のとおりである。

2.4 I C Tを用いた学習内容・方法

- ① 例えば「コミュニケーションのコンテキストが変わると、伝え方や受け止め方がどのように変わるのか」「インターネット上のコミュニケーションツールが変わると伝え方や受け止め方がどのように変わるのか」等を対人関係、集団組織、社会・文化の文脈に応じたコミュニケーションの在り方についてグループで議論させる。
- ② 学生が必要と考えるコミュニケーションに関する知識・技能を体系化し、その中から課題の解決に必要な最適な解を発見させる。ファシリテーターを導入して学生の課題に適した学習支援を行う。
- ③ 学習成果を対面やインターネット上で発表させ、グループ間で相互評価を行わせる。
- ④ インターンシップでは、習得した知識・技能と実践とのギャップに気付かせ、新たな課題と解決方法を認識させる。その上で、これらの学習成果をインターネット上に掲載して、発展的なグループ学習につなげる。

コミュニケーション関係学教育における教育改善モデル（中間まとめ案2）

- ① 「2つの学問領域（コミュニケーション学とメディア学）を混同している。前者は文学・日本語・言語文化領域あるいは発達科学領域に属し、他方は文化情報学に属する。コミュニケーション学とコミュニケーション関係学との違いが不明確である。さらに、既存の学問領域を変えるというのなら、不都合があることを示すべきである。」については、文言は前回の委員会で修正したが、学問領域については再度、下記のとおり確認した。

- ・コミュニケーション関係学とは私情協で考えた言い方であるが、コミュニケーション学、メディア学の両方を扱っている。幅広く考えているので混同とは違う。

- ・今回の教育改善モデル、その1についてはコミュニケーション学、その2についてはメディア学に比重を置いて作成している。

以上、ご意見をいただいたサイバーFD研究委員にご理解いただけるよう、お礼とともに説明することとした。

- ② 2.4 I C Tを用いた学習内容・方法について、見直し、修正を行った。
 - ・メディアをどのように選択するか、適切性についてもう少し加えてはどうか。
 - ・作品をつくることが目的でなく、I C Tを活用して、異なるメディアを使うことでどのような特徴があるかを理解させる。メディアの特徴比較、情報伝達のあり方を描いてはどうか。

などと意見が出され、「2.4 I C Tを用いた学習内容・方法」の最終的にまとまった文案は下記のとおりである。

2.4 I C Tを用いた学習内容・方法

- ① メディアの発達過程を踏まえて、現在又は将来予測されるメディア及びそのメディアの中で展開されるコミュニケーションの可能性と限界についてグループで整理させる。
- ② コミュニケーションにおいてメディアをどういう場面でどのように使うことが適切なのか、同じコミュニケーション行為であっても、異なるメディアを使用することで伝達効果がどのように異なるか等、「受け手」の立場からメディアの特徴について考えさせる。
- ③ ②を踏まえた上で、メディアを用いた作品制作を通じて、効果的なコミュニケーションを行う技法やメディアの特徴、表現形式がコミュニケーションにどのように作用するのか等、「送り手」の立場から実践的に学習させる。
- ④ ①～③の学習成果について、大学間での講評を行い、その上で社会の専門家から意見を聴取して学びの振り返りを行い、発展的な学習につなげる。

2. 授業の点検・評価・改善

各委員会で教育改善モデルを提案したが、理事会でPDCAのサイクルを回すための仕組みが必要だとの指摘があった。それに応え、教育改善モデルを教員が連携して点検・評価・改善してゆくための基準を4～5行で表現して頂きたい。

3. 教員の教育力の検討

コミュニケーション関係学教員に求められる専門性（学識）とは何かを考えることにし、具体的にこの授業モデルを進めていく指導力を検討する。

発見、統合、応用などの能力を教育力として評価するようなシステムについても検討するものとし、設定した教育力はFD活動にも利用できるようなものにすることを確認した。

次回の委員会では「授業の点検・評価・改善」について検討し、完成させることとした。

4. 今後のスケジュールについて

今年度の委員会はあと1回で終了とし、来年度は作成したモデルをもとに、モデル実現のための教員の教育力について検討し、冊子刊行に向け編集作業を行う。

V. 次回の開催日程

日時：メーリングリストにて調整

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室